

## 英国との交流事業について

### 1. これまでの主な取り組み

平成27年2月の英国ウィリアム王子のご来訪を契機として、英国との交流を活発に行っている。



英国ケンジントン&チェルシー王立区と  
姉妹庭園覚書締結



「未来へつなげる もとみや英国訪問団」  
平成29年～令和元年



「もとみや国際交流親善大使」の委嘱



英国の  
「復興『ありがとう』ホストタウン」



(リアム・ヒース選手との交流)

英国生徒と市内生徒との交流



(令和元年英国訪問)



(オンライン交流)

◆これまでの英国訪問事業「未来へつなげる もとみや英国訪問団」

第1回 平成29年7月18日～22日（3泊5日）

参加者45名のうち、市内中学生9名参加

第2回 平成30年7月23日～27日（3泊5日）

参加者24名のうち、市内中学生12名参加

第3回 令和元年7月7日～12日（4泊6日）

参加者26名のうち、市内中学生12名、高校生（市民参加）1名参加

◆ダヴェナント・ファウンデーション・スクール生徒の来市

今年度、復興ありがとうホストタウンの取り組みとして令和元年に招待していた、ダヴェナント校の生徒の来市を実現することができた。



【期間】

令和4年10月17日(月)～21日(金)

【参加者】

生徒15名、校長、担当教師2名

【主な内容】

市内中学生との交流

プリンス・ウィリアムズ・パーク見学  
体験（りんご狩り、座禅など）

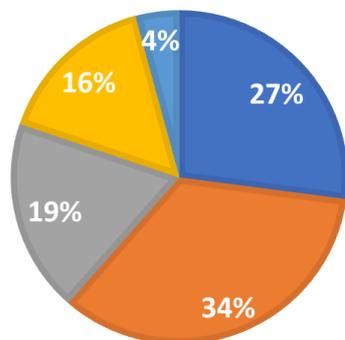
ウェルカムパーティー など

## 2. 交流の成果

交流事業に参加した生徒について、アンケート調査などから下記の成果がみられた。

- 英語学習意欲の向上
- 海外志向の高まり
- コミュニケーション力の向上
- 主体性・積極性の向上
- 異文化理解の高まり

Q. イギリスの生徒との交流事業に参加して良かったことは何ですか？



- イギリスの文化や言葉について興味を持つようになった
- 英語をもっと勉強しようと学習の意欲がわいた
- 社交性が身についた
- 積極性が身についた
- その他

Q. 機会があったら、イギリスに行ってみたいですか？



Q. 交流に参加して思ったことや本宮市の国際交流事業について思うこと

- ・帰国してからずっと、もう一度英国に行きたいと思いつけている。
- ・将来は本宮市の英国交流の様に、学生の国際交流を推進したり、地域の活性化に繋がるような国際交流に携わる仕事に就きたい。
- ・将来外務省で働き、日本と世界のよりよい外交に貢献したい。
- ・当時、渡英していなかったら、英語に自信を持つこともできず、国際的な舞台で活躍したいと考えるには至っていなかった。
- ・英語学習の意欲が強くなった。英国に留学するという目標を達成するために努力したい。
- ・異文化に触れたことで自分を振り返り、私たちが住む「日本」という国の文化がどんなものなのかを改めて考えるきっかけとなった。
- ・3年前に初めてイギリスを訪れたことは、自分が将来何をやりたいかを考えるきっかけとなった。
- ・このような機会があれば今よりも英語力を伸ばして、福島の魅力などもイギリスの生徒に伝えたい。
- ・本宮市以外の市で本宮市より規模が大きい市でもコロナ禍で国際交流事業が全く無かったり、コロナでなくてもそのような事業が手薄になっていたりするなかで、本宮市は私のような海外にも視野を広げたい学生たちにとって夢を持たせてくれる市であり、本宮市民で良かったと思う。
- ・英語の勉強のモチベーションがさらに上がり、劇的に海外志向も高まった。これからの進路選択においても、これらの事業の経験は大きな糧になると思う。

(英国生徒との交流参加生徒アンケートより 令和4年11月実施)

### 3. 今後の取り組み

中学生英国派遣事業「未来へつなげる もとみや英国訪問団」の再開

#### 目 的

未来を担う子供達（中学生）を英国へ派遣し、現地生徒との交流や異文化の体験を通して国際性豊かな人材育成を図る。

#### 実施時期

令和5年7月（4泊6日）

#### 訪問団構成

市内中学生12名（募集・選考）

市長、市職員

#### 主な内容

- ・交流学校訪問・交流・授業体験等
- ・関係機関訪問（ケンジントン&チェルシー王立区、在英国日本国大使館、UCL（ユニバーシティカレッジロンドン））等



#### 目指す将来像

**市民や地域がグローバル感覚に優れ、国内外に開かれた可能性の広がるまち**

国際交流を推進するとともに、多文化共生に対する理解を深めながら、市民や地域のグローバル感覚を磨き、国際化社会に対応することのできる人材育成と地域の活性化につなげる

